

独創の国文・民俗学者にして歌人、 折口信夫=釋迢空の原点がここに 折口少年は大阪と 上町台地に何を見たのか

- 開催日時: 2023年12月10日(日) 14:00~16:30頃 ※13:30開場
- LIVE会場: 大阪ガス実験集合住宅NEXT21 2階ホール(大阪市天王寺区清水谷町6-16)
- 開催・参加方法: 会場+オンライン(Zoom)参加及び見逃し配信視聴
- 定員: 会場40名(申込先着)・オンライン及び見逃し配信100名程度(要申込)
※後日視聴希望者向けに1カ月限定の録画配信予定(要申込)

- プログラム(予定)・出演者:
 - 14:00~14:10=開会・スケジュール等のご説明
 - 14:10~14:20=はじめに「没後70年、折口信夫の年譜紹介」
U-CoRoプロジェクト・ワーキング
 - 14:20~15:00=フォーカス
「私の釋迢空アンソロジー、大阪詠で追う折口少年のまなざし」
ゲストスピーカー: 高田ほのか(歌人)
 - 15:15~16:30=ダイアログ
「折口学・作品群を生んだ、大阪と上町台地のコスモロジーに迫る」
パネリスト: 田野 登(大阪民俗学研究会代表)
高橋俊郎(オダサク倶楽部代表)
北辻 稔(古代史探検家)
進行役: 弘本由香里(大阪ガスネットワーク エネルギー・文化研究所 特任研究員)

◎申込方法: <https://onl.bz/8uE2k1e> のフォームからお申込みください
(右の二次元コードからもアクセスできます)。申込締切12月8日。
※オンライン参加及び見逃し配信をお申込みの方には後日メールでURLをお送りします。

■主催: 大阪ガスネットワーク エネルギー・文化研究所(CEL) ■企画: U-CoRoプロジェクト・ワーキング
◎問合せ先: CEL 弘本(電話 06-6205-3518) まで



国文学と民俗学を独自の感性で結び付け、「まれびと」「常世」などの概念を生みだし、また、古代・中世の伝説に想を得て、『死者の書』や『身毒丸』など異彩を放つ小説を創作し、さらには、歌人・詩人としても大きな足跡を残した、折口信夫=釋迢空。文化の基層を訪ね、学術と芸術を横断した、異能の人の原点が大阪にあったことは、意外に知られていません。

奇しくも没後70年に当たる2023年、「上町台地 今昔タイムズ」vol.19では、折口信夫の少年時代を中心とした、大阪・上町台地周辺の歩みをたどりましました。後に折口自身が語っている、大阪のある種の“野生”を帯びたまちのありようが、この地で生まれ育った折口少年の心を深く豊かに耕していたことを浮き彫りにしています。

そこで、2023年秋の上町台地 トークライブでは、現代の大阪で人々の想いを描く歌人・高田ほのかさんをゲストに迎え、今昔タイムズvol.19で、折口信夫の原風景を読み解いていただいた、田野登さん・高橋俊郎さん・北辻稔さんを交え、折口少年のまなざしを入口に、折口学・作品群を生んだ大阪と上町台地のコスモロジーに迫ります。

折口信夫の思想や感性を形作った風土、その軌跡を追体験することが、混迷の時代にあつて、都市・大阪の再評価に向け、欠かせない視座と眺望を開く機会になれば幸いです。

*「上町台地 今昔タイムズ」や関連フォーラムのドキュメント・レポートのバックナンバーは、ホームページ「大阪ガスネットワーク CEL」 「U-CoRo」で検索してご覧いただけます。

出典: 国立国会図書館「近代日本人の肖像」から

